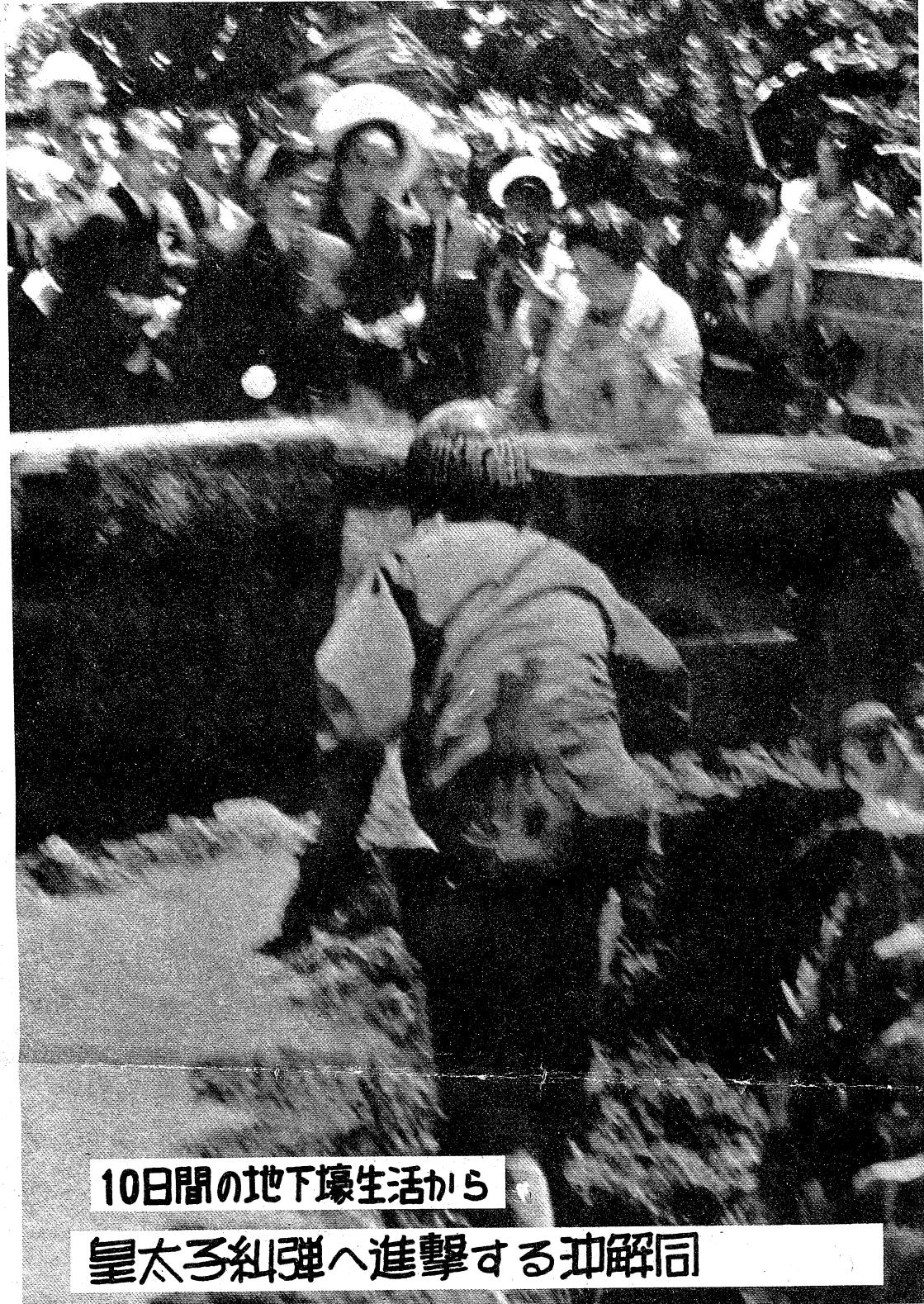


激動の
七日間

沖縄・七月の熱い島と化す



プロレタリアの旗

第4号

(通卷304号)
7月25日・8月10日
合併号
東京中央郵便局
私書箱1311号

¥100

共産主義者同盟
全国委員会

(ボルシェビキ)

沖解同、皇太子へ決死糾弾

我が同盟——戒厳令突破し
前段武装襲撃へ



我が戦士達の手によって燃え落ちた辺り交番(7・16)

今や沖縄解放とプロレタリアー
トの未来は、我が同盟と共にあ
る。我々が、三百余年の沖縄人民
の怒りを、プロレタリアートの解
放に組織できる確信を握りしめて
いる。日帝の先遣隊、皇太子の上
陸糾弾に決起した沖縄青年の献身
性こそ、革命党的思想を体現され
ねばならない事を、はつきりと我
が任務の中軸に据えよう!

日帝は、皇太子上陸に続き、三
博粉砕闘争が、沖縄——本土——を
固めねばならない。それは、海洋
ア独裁の立場を一層強固に打ち
砕の連続闘争を組織し、我が同盟
が築きあげた沖縄解放——プロレタ
リア独裁への水路をじっくに開け
示しているが故に、我々が、その
先頭に立ちきり、沖縄解放——プロ
レタリア独裁への水路をじっくに開
けねばならないという確信である。

新たな沖縄プロレタリアートの革
命的登場が歴史のページを開こう
としている今、何よりも、首尾一
貫したマルクス・レーニン主義に
基く革命党的建設を、沖縄——本土——
プロの共同の事業として遂行
する事が問われているのである。

大胆に、更に大胆に、革命の大道
を切り拓け、排外主義、社会排斥

七・一七を沖縄解放の魂とせよ

一面よりつづく

主義の反動攻撃を打ち碎り、熱い
沖縄解放の息吹きを、全戦線に叩きこめ！

闘いの火は、一六日夜刻、
楚辺交番に炸裂した火炎ビンの炎
によって切って落とされた。皇太子
上陸阻止・海洋博粉碎の固い決
意に燃えた我が部隊は、権力の敵
戒体制を突破し、皇太子宿泊所ハーバービューホテル直下、那覇

刑務所の面前という権力の巣窟網

の真中に怒りの炎を炸裂させたの
だ。権力の詰所が赤い炎をあげて
焼けおちるのを見届け、我が戦士
達はうとうとする権力を昂目に全員

悠々無事帰還した。この闘いは、
同時に貫徹され

たボルシェビキの同志を司会とす

る三百名の前段決起集会とともに、
五日間の激闘の火は、切って落

としたのである。この七・一六の
烽火は、更に翌日、沖縄進行上陸し

た皇太子に対する決定的な糾弾の
炎となつて燃えあがった。

沖解同(准)を中軸とする沖縄

青年と革命的「本土」青年は、皇

太子の行列が通過する糸満の白銀

病院三階から、そして空涙を流し

てひめゆりの塔に参拝し、沖縄戦

の「聖戦」化と戦没者の「英靈」

化をなさんとしたアキヒト・ミチ

史上初めて、皇太子に対する直接

の糾弾が叩きつけられたのだ。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

モを三百名の部隊で貫徹し、待期

の糾弾が叩きつけられた。

これが現地共闘は唯「ダラ幹と対決

の到着と同時に地下十メートルの

している現地共闘本隊に伝えられ

をして、この二六・一七日の闘

いの成果を更に打ち固めるべく、

我が三百名の部隊は、八日間護

から糸満から那覇への十キロのデ

<p

五面よりつづく

いた。奈良原県下の沖縄人民の政治的無権利と経済的疲弊の状態を明らかにし民権の獲得をめざした謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民の解放を天皇制支配のイデオロギーに対する闘争の中心に即ち解放闘争の中に求める

その大きな面を現わしたのだ。その命令は実行された。轟音が、つつきに合間にこだました。

「…」(山川恭邦「秘録沖縄戦史」)

「命令は実行された。轟音が、つつきに合間にこだました。

死にそこなったものは、散して死にそこなったものは、

棒片で頭を打ちあい、カミソリで頭部をきり、鍬・鎌・鎌を用いて親しい者同志が、頭をたき割り、首をかきぎった。恐ろしい情景が、恩納河原といふところで繰り広げられたのである。

この沖縄戦の遂行は、だがそ

うして三百二十九人の住民が自ら命を絶った。」(沖縄タイムズ社編「鉄の暴風」)

この沖縄戦の遂行は、だがそ

れ以前の沖縄民に対する徹底し

た皇民化教育の遂行によつてのみ可能であった。今、屋良「県」知事が、「皇子来沖」を巡って、

いつまでも沖縄が、国民感情とかけ離れてゐるが如き印象を与えるのはよくな」と主張する時、この沖縄戦に歸結するに至る沖縄の皇民化強制教育の過程を想起させるに充分である。

沖縄近代史は、天皇制政府による専制支配と差別・収奪の連続であった。明治の「琉球处分」は、伊波普の述べる如くの「奴隸解放」ではなく、「旧慣温存」せしめたまま、沖縄を天皇制支配へ収奪の対象にしたのであった。沖縄解放闘争は、この「旧慣温存」に対する闘争として開始され、一八九〇年代における人頭税廃止運動から更に発展して、二〇世紀に入ると謝花昇を中心とした自由民権運動が展開され、天皇制官僚・奈良原県政との死闘が繰り広げられた。だが、二〇世紀初頭の天皇制権力の強化の中で庄殺されて

いた。奈良原県下の沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民の解放を天皇制支配のイデオロギーに対する闘争の中心に即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

のではなくて、「現実をちがつた謝花の運動が庄殺された後、沖縄人民は、即ち解放闘争の中に求める

沖縄解放の為の今日的課題

結びにかえて

七・一七皇子決死糾弾断固支持

の命令は実行された。轟音が、つつきに合間にこだました。

死にそこなったものは、

棒片で頭を打ちあい、カミソリ

で頭部をきり、鍬・鎌・鎌を用いて親しい者同志が、頭をたき

割り、首をかきぎった。恐ろしい

情景が、恩納河原といふところ

で繰り広げられたのである。

この沖縄戦の遂行は、だがそ

れ以前の沖縄民に対する徹底し

た皇民化教育の遂行によつてのみ

可能であった。今、屋良「県」知

事が、「皇子来沖」を巡って、

いつまでも沖縄が、国民感情と

かけ離れてゐるが如き印象を与

るのはよくな」と主張する時、

この沖縄戦に歸結するに至る沖

の皇民化強制教育の過程を想起さ

せるに充分である。

沖縄近代史は、天皇制政府によ

る専制支配と差別・収奪の連続で

あった。明治の「琉球处分」は、

伊波普の述べる如くの「奴隸解

放」ではなく、「旧慣温存」せ

しめたまま、沖縄を天皇制支配へ

収奪の対象にしたのであった。沖

縄解放闘争は、この「旧慣温存」

放」ではなく、「旧慣温存」せ

しめたまま、沖縄を天皇制支配へ

収奪の対象にしたのであった。沖